

平成 22 年度学習サポート報告

昨年度の大学教育推進プログラム採択に引き続き、今年度は2年目として本格的にプログラム事業を実施した。平成 22 年度の活動状況をここに報告し、最終年度である次年度に繋げてゆきたい。

1. 平成 22 年度の目標

平成 22 年度の目標は、前年度の事業を継続し発展させ、下記の事業(A),(B),(C)によって学生の基礎学力の向上、FDの推進及び外部との交流を図ることである。

(A) サポーター制度の継続実施と発展

(A-1) 従来実施してきた個別学習サポート、及び前年度に新規に開始したサポートスペースによる学習サポートを継続的に実施し、学部学生の基礎学力の向上を目指す。

(A-2) 制度の効果を検証するためにデータの収集・管理を行う。

(B) 学習サポーター制度支援 Web システムの発展的構築

(B-1) システムの開発のため、システム設計、システム構築、システム運用を委託する。

(C) 学習サポーター制度実施に関する情報の外部発信と交流

(C-1) 基礎学力向上に関する研究会の開催

(C-2) 高校、高専との連携の検討

2. 各事業の実施状況について

(A) サポーター制度の継続実施と発展

個別学習サポートについて

制度開始以来4年が経過し、個別学習サポートは学内でも認知されてきている。個別学習サポートはほぼ従来通りに実施しているが、次第に全学の協力体制が確立されつつある。共通教育センターを活動の主体として、各課程の2、3年生のクラス担任が、それぞれ、対象学生とサポーターを選出するのも制度の経過とともに順調に行われるようになった。また、学務課の協力も重要である。特に制度2年目になり、この補助事業の予算による担当者の雇用は制度の実施に欠かせないものとなった。その点で、本補助事業の採択はサポーター制度にとって重要なものであると言える。また、サポーターも熱心な者が多く、彼らからの報告書によると、学生の学力等の状況をよく理解し、ときには時間を延長してサポートしている。また、学業以外のこと、例えば、科目履修、研究室配属、就職、進学、等、アドバイスをしている様子が報告されている。

サポートスペースによる学習サポートについて

サポートスペースによる学習サポートは昨年度開始したばかりであり、事業として定着し

たとは言えないが、次第に利用する学生数は増えている。昨年度2学期は45人だったのが、本年度1学期は95人と倍増以上であった。しかし、2学期は48人だったため、今後さらに実施方法等を検討して効果的なサポートを進めてゆきたい。また、場所についても利用者数を調査しながら適切な場所を検討している。

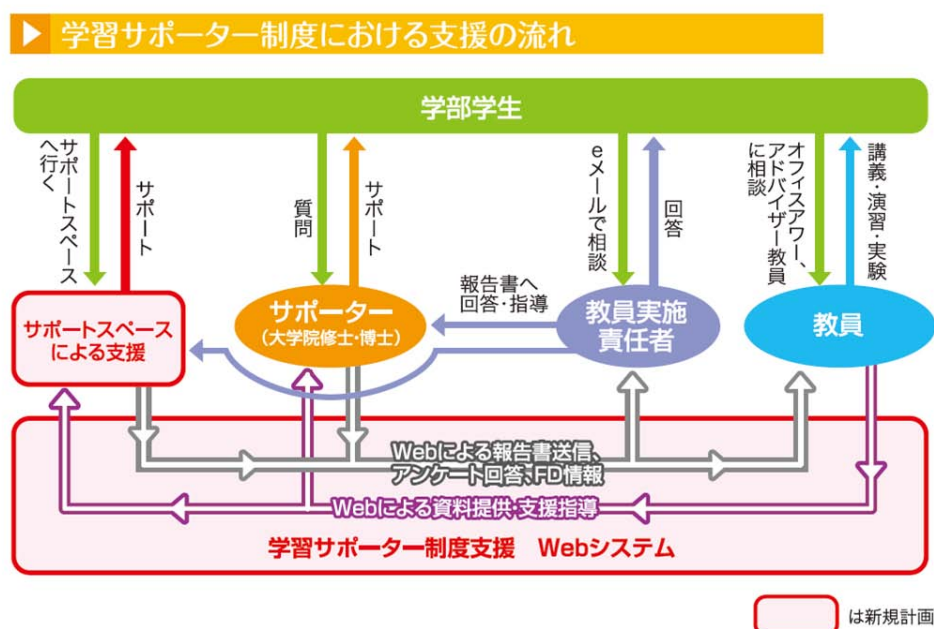
データの収集・管理について

下記5. に掲載する具体的活動でも示されているように、学期毎に、対象学生およびサポーターに対してアンケートを実施して、その学期のサポートに関する状況を把握している。また、学期の中頃にサポーター会議を実施して、サポーターからの意見や提案等の情報を収集している。サポーター会議では積極的に意見を述べるサポーターが多く、我々実施責任者にとって非常に参考になる。実際、彼らの意見や提案によってそれまでのやり方を変えたことが何度もある。また、本推進プログラムによって、報告書作成・事例データベースのシステムが充実し、その結果、報告書の記載、対象学生の出欠、サポーターアンケートの自動統計処理を含む統計システムが効果的に利用できるようになった。

(B) 学習サポーター制度支援 Web システムの発展的構築

制度支援 Web システムの構築によるリアルタイム FD の実施

本制度では、下図に示すように Web システムによって学部学生の基礎学力向上のためにサポーター、教員、及び実施責任者の活動を支援することを目標の一つにしている。



本年度は、このシステムを利用して、昨年度に引き続き「リアルタイムFD」を継続実施した。リアルタイムFDとはサポーターの報告書を科目担当教員に自動的にメールで送信して、その科目に対する学生の理解度に関する情報を提供するものである。学期の終わり

に教員に対してアンケートを行い、リアルタイムFDの有効性について検証している。その結果、概ね効果的に利用されているようだが、今後さらに意見を聞きながら不十分な点を改善してゆきたい。

教員オフィスアワー参照・予約システムの構築

さらに、本年度9月から「教員オフィスアワー参照・予約システム」を構築し、学生が教員に直接質問・相談に行きやすい環境を整えた。しかし、この予約システムは必ずしも多く利用されているとは言えない。今後さらにシステムについて周知し、有効に利用されるように進めてゆきたい。

(C) 学習サポーター制度実施に関する情報の外部発信と交流

基礎学力向上に関する研究会の開催

下記のとおり研究会を実施した。

基礎学力向上に関する研究会～上級生が下級生を教える～

日時：2010年11月5日金曜日(10:00-17:30)

会場：長岡技術科学大学マルチメディアシステムセンター

講演：

中川健治(長岡技術科学大学准教授・共通教育センター)

「学習サポーター制度の現状と今後の課題」

林 光緒(広島大学教授・学習支援室室長)

「広島大学での学習支援室の取り組みについて」

特別講演:長谷川雅一(新潟県立教育センター指導主事・教育支援課)

「上級生が下級生を教えること」

森 朋子(島根大学准教授・教育開発センター企画部門部門長)

「先輩が後輩を効果的にサポートするその背景にある学習理論、
島根大学メンター制度の実践とその効果検証」

箕田充志(松江工業高等専門学校准教授・LT推進室副室長)

「ラーニング/ティーチングによる基礎学力の向上」

パネルディスカッション：講演者、サポーター2名

それぞれの講師から、基礎学力向上に関して上級生の協力を得ながら進めていく取組について発表があった。各大学、高専に共通する事柄が多く、非常に参考になった。また、後半のパネルディスカッションでは、講師に加えて2人のサポーターが参加し、積極的に意見を述べた。特に、学生の視点に立った意見があり、有意義なディスカッションであった。その一方、本学の教員の参加が少なく残念だったが、来年度は多くの参加を呼びかけたい。

高校、高専との連携の検討

基礎学力向上に関して、高校や高専との連携や意見交換等を計画していたが、上記の研究会で情報交換をした以外はほとんど活動は行われなかった。来年度は本プログラムの最終年度なので、さらに活発に活動を進めてゆきたい。

3. 昨年度の課題に対する改善結果

昨年度の報告で挙げた反省点と課題に対する対応を下記に示す。

(1) サポートスペースの効果的な運用

本年度は、1, 2学期ともに図書館3階グループ閲覧室で実施した。サポート時間や曜日を変えて実施して、利用者数を調べた。今後さらに検討し、なるべく多くの学生が利用しやすい場所と時間について検討してゆきたい。

(2) 個別サポートの継続実施

これまで4年間の継続実施により、学内で制度が次第に認知されてきた。特に、大学院生のサポーターへの応募が多くなり、こちらからサポーターを探すということがなくなってきた。我々としては応募者の中から優秀なサポーターを選ぶことができるので、この傾向はよいことだと思う。

(3) サポートスペースの対象を1, 2年生に絞る。また、1年入学者をサポーターに。

昨年度は対象を1, 2, 3年としたが、3年生は授業が多く、サポートスペースの時間に来ることができない。そこで、サポートの時間を1, 2年生に都合の良いように設定した。その結果、利用者が増えてうまく行ったと言える。また、サポーターとして従来からも1年入学者を採用するようにしていたが、1年入学者の応募数が少なく、今年度も全員が1年入学者ということではできなかった。

4. 次年度に向けての改善点

(1) 個別サポートでの欠席者について

学習支援報告書では、【欠席者（事前連絡あり）】と【欠席者（事前連絡なし）】を記載するようにしている。基本的に対象学生は自ら希望してこの制度に参加しているのだから必ず毎回サポートに参加すべきである。しかし、やむを得ず欠席する場合には事前にサポーターに連絡するように指導しているが、必ずしもこれが守られていない。また、事前連絡なしというのは言語道断である。欠席の場合は必ず事前に連絡するように徹底したい。

(2) さらに学力の低い学生をサポートする

サポートを受けている学生の数学プレースメントテストの成績を見てみると、中位から上位の学生もいる。本制度は学力の低い学生の基礎学力を向上するプログラムなのでなるべく下位の学生を指導したい。しかし、実はこれが難しい問題で、成績下位の学生はサポートを受けて向上したいという気持ちが少ない。むしろ中位以上の学生が向上心が強く前向きにサポートを受けている。この問題にできる限り全学的に取り組んでゆきたい。

5. 平成 22 年度の具体的活動

平成 22 年

3 月 12 日 学習サポーター制度実施責任者（クラス担任）打合せ会

3 月 31 日 対象学生用ポスター掲示／サポートスペースサポーター募集〆切

[1 学期]

4 月 6 日 第 2 学年ガイダンスで制度の説明

4 月 6 日 入学ガイダンスでサポーター制度の説明

4 月 7 日 サポートスペースサポーターガイダンス

4 月 12 日 サポートスペースでのサポート開始

4 月 22 日 個別サポートの対象学生及びサポーター選出〆切（学務課へ連絡）

4 月 28 日 学習サポーターガイダンス

〃 平成 21 年度実績報告書作成，文部科学省へ送付

4 月下旬 個別学習サポート開始

6 月 3 日 サポーター会議開催

[2 学期]

7 月下旬 対象学生，サポーターアンケート実施

9 月 7 日 サポートスペースサポーターガイダンス

9 月 9 日 教育 GP 学内ヒアリング

9 月 17 日 2 学期個別サポートサポーター，対象学生選出〆切

9 月 28 日 サポーターガイダンス

10 月 12 日 研究会開催打ち合わせ

10 月上旬 個別学習サポート開始

11 月 4 日 サポーター会議開催

11 月 5 日 基礎学力向上に関する研究会～上級生が下級生を教える～開催

12 月下旬 対象学生，サポーターアンケート実施

平成 23 年

[3 学期]

1 月 7 日 3 学期個別サポートサポーター，対象学生選出〆切

1月12日 3学期サポーターガイダンス

1月初旬 個別学習サポート実施

～2月中旬

1月24日 大学教育改革プログラム合同フォーラム（秋葉原）参加

2月中旬 対象学生，サポーターアンケート実施

2月28日 九州工業大学「大学基礎教育フォーラム」参加

3月17日 京都大学教育フォーラム参加

～3月18日

6. 各学期毎のサポーター数と対象学生数

(1) サポーター数

1学期個別サポート 49人

1学期サポートスペース 6人

2学期個別サポート 20人

2学期サポートスペース 5人

3学期個別サポート 4人

(2) 対象学生数

1学期個別サポート 146人

1学期サポートスペース人 95人（延べ人数）

2学期個別サポート 50人

2学期サポートスペース 48人（延べ人数）

3学期個別サポート 5人